

第5期 奈良伝統工芸後継者育成研修生

奈良伝統工芸後継者育成事業

奈良伝統工芸の後継者を育成・支援することにより、その技術・技法を後世に伝承することを目的として、平成18年(2006年)から始めました。

現在の 第5期 奈良伝統工芸後継者育成研修は、平成30年(2018年)10月から開催しています。

また、研修修了生(一刀彫・赤膚焼・奈良漆器・奈良団扇)については、公募展等で入賞他、相当の成果をあげています。

研修内容

- ・ 工房主が行う基本的な指導
- ・ なら工芸館において行う技術的な自己研修
- ・ なら工芸館で開催される各種催しへの参加

研修期間は3年ですが、一年ごとに研修生からの作品の提示を受け、更新するかどうか審査が行われます。



菅原尚己 Naoki Sugahara (赤膚焼)

応募理由 この研修制度では、他の異業種の方々と出会えて交流が出来ると思いました。異業種の方々から様々なお話など聞いて色々な技術を知り、その事を自分の作品に取り入れ、自らの技術向上に生かしたいと思います。

自己紹介 私は高校から陶芸を学んでいます。高校を卒業後、京都府立陶工高等技術専門校に総合コースとして、ロクロをメインに二年間学んできました。地元が奈良で赤膚焼に興味があり、今現在、大塩昭山先生のもとで修業と、それを生かした個人の制作をしています。

研修計画 大塩昭山先生の所でロクロや釉薬や窯の事など、赤膚焼に関する技術や本来の姿を学んでいます。工房で学べないことをこの研修で学びたいと思います。作品制作は赤膚焼とお茶の繋がりを勉強し、それを生かして茶道具を作りたいです。私は今まで装飾された作品を作る機会が多かったので、その技法と、今学んでいる赤膚焼の技術を使い、自分の作品を制作していこうと思います。

奈良市展をはじめ、様々な場所での発表活動を考えていますが、自分は修行中の身なので、先生に相談しながら、どの様な場所に出品するか決めていきたいと思っています。そして、少しでも時間に余裕を作り、技術向上のためと、工房や今いる環境では出会える事のない人との繋がりを作り、新しい作品に生かせればと思います。

研修修了後の計画 私の研修修了後の計画は、色々な場所で公募展などに出品し、少しずつ私の作品をお客様に見てもらい、勉強させて頂きたいです。そして個展など幅広い活動をしたいと思っています。なぜなら、奈良県に住んでいる人でも赤膚焼の事をまだ知らない人達がいるからです。私も赤膚焼を知ったのが京都府立陶工高等技術専門学校に入ってからでした。少しでも多くの人達に知ってもらうために努力して、研修制度を通して多くの奈良の作家さん達と合同展などが出来れば自分のはげみにもなると思います。奈良には他にも様々な伝統工芸があるので、見てくださる方々にも興味を持ってもらい、そこから広がればいいと思います。



大塩まな Mana Oshio (赤膚焼)

応募理由 本研修を受ける事により、奈良の伝統工芸である赤膚焼の技術をしっかりと身につけ、学生の頃に学んできた、他の焼物との違いを理解し、赤膚焼の後継者として成長していきたいと思ったためです。また、なら工芸館の事業に協力する中で、伝統産業に携わっておられる方々から、何か学ぶことができれば、と思っています。

自己紹介 樫原学院高等学校で、油彩、彫刻、版画を専攻、基本的なデッサン等の技法を学びました。奈良芸術短期大学では、“陶芸を基礎からキチンと学ぼう”と思い、陶芸コースに入学し、卒業後は、京都市産業技術研究所で、主に釉薬について学び、陶芸作品を作る、知識、技術をより深めました。

研修計画 赤膚焼を製作するにあたっての技術的な部分を主に学びたいです。伝統の技術を身につけることで、新しい発想を得ることもあると思うので、それらのことを作品に反映していけるようにしたいです。また、展覧会などにもそういったオリジナリティーのある作品を出品したいです。

研修修了後の計画 赤膚焼の技術を生かして、色々な作品を作り、赤膚焼のことをたくさんの方々に知ってもらいたいです。そのために、展示会や、作品展など多く出品していきたいです。伝統の技術を会得することで、今まで学んできた様々な技法をより深め、新しい作品づくりに生かすことができると思うので、“温故知新”という考えを大切に、研修にとりこんでいきたいです。



平井和希 kazuki Hirai (奈良一刀彫)

応募理由 独立開業に必要なあらゆる事を学び、揃え、繋がって、出来る限り早く立ち立つため、また、研修生という立場から、様々な活動に参加することで、多くの人との縁を得ることが出来れば、独立後の大きな力になるのではないかと感じ、応募させて頂きました。

自己紹介 木彫が好きで約十年、ひたすら技術を高めたい一心で仕事に打ち込んできました。ここに来てようやく立ち立ってやっていきたい、やれるのではないかと、欲や自信が湧いてきました。宜しくお願いします。

研修計画 必要なモノ、コトを揃えていき、研修期間中の独立開業が目標です。

一刀彫講座では、生徒さんが、こんなモノを作りたいという希望に合わせて見本を作っています。十二支の揃い、雛人形、五月人形を商品としての質を高め、販売して資金を貯め、工房、機械(帯鋸)、材料(木材、絵具等)、その他(箱、包装、梱包材等々…)を準備して独立したいと考えています。商品の質や種類を充実させ、研修生期間中に、ある程度安定して収入を得られる様になっていることが理想です。

研修修了後の計画 研修修了までに独立し、ある程度安定した収入を得られる様に、商品の質や種類を充実させつつ、博物館や神社の記念品を作ったり、教室で生徒さんの見本を作ったりする他、デッサンや塑造を続け、常に技術の向上を目指します。そして、森川杜園を筆頭に、過去の名人や名作等を研究し、技術や感性を最大限吸収して、その魅力を人にも説明できる様になっていきたいと思っています。

奈良一刀彫には、彫刻の基本(対象を面で捉える)と同時に、同じ対象でも面の選択の仕方でも全く違う表現ができる懐の深さや可能性があると考えています。対象も干支や節句人形、能彫などと沢山ありますが、他にも干支以外の動植物に、節句も三月と五月だけではないし、能以外の歌舞伎や相撲等の伝統美の残っているもの、更には海外文化でも、一刀彫で独自の表現のできる対象は無限にあると感じています。ただし、前提には確かな技術力がなくてはなりません。闇雲に何でも立体化すれば、その文化を汚してしまうだけです。対象を観察し、デッサンや塑造で深く理解して、その特徴を最大限に捉えた作品を作らなければなりません。その際に、杜園はこの対象をこんな面で表現している、それは何故なのか、といった事が引き出しとして多くあれば、自分の表現の基準になったり、そこから発展させていくなど、表現の幅にもつながると思います。

自分の作品づくりの根幹の一つとして、奈良一刀彫と奈良の文化を研究し続けていくことが大切だと考えています。